

高橋用水

高橋用水は、矢作川の左岸、高橋町地内を水源として六ッ美地区の高橋、上青野、下青野、上合歓木、下合歓木、福桶、下三ツ木、安藤、中島を経て西尾市吉良町に至るものである。用水路は延長約5.1kmにおよぶ農業用水路で、高橋用水受益279ha、高落用水受益の一部165ha、合計444haの水田に水を供給している。高橋用水は、現在パイプライン化され地下に埋設されており、通水路になっているところもある。

用水路は1882（明治15）年に計画され、翌1883（明治16）年2月に工事が始まり5月に完成した。1908（明治41）年から1911（明治44）年にかけて矢作川の取水口が大改修された。その後、1942（昭和17）年にも改修工事が行われた。1944（昭和19）年12月の東海地震、1945（昭和20）年1月の三河地震により用水路は被害を受けたため、1948（昭和23）年から10年をかけて再度改修工事が行われた。また、1956（昭和31）年から8年の歳月をかけ、コンクリート水路に改築する工事が行われた。改築後30年余におよび老朽化が進んだため、1993（平成5）年に再度改修された。高橋用水記念碑は高橋町の矢作川左岸の建立されている。

明治・大正期に高橋用水の完成・改修に尽力したのは衆議院議員の早川龍介（1853～1933）と六ッ美村の初代村長であった鍋田恒雄（1848～1931）の2人である。高橋町の取水口にある記念碑（1919（大正8）年）には鍋田恒雄の名前が発起人の一番初めに刻まれている。これは、リーダー的存在として働いていたこと、その業績が多くの人たちから認められていたことなどを表していると考えられる。



取水口 20150720



高橋町 20150720



高橋町フタバ産業 20150720



下青野町 20150720



福桶 20150720



安藤 20150720



二軒屋 20150720



上側 20150720



八幡 20150720



新町 20150720



境 20150720



説明板 20150720



高橋用水記念碑群 20150726



1919(大正8)年6月建立 20150726



高橋用水土地改良区役員
並びに総代氏名

1966(昭和41)年5月建立 20150726



取水口 大正4年



悠紀齋田と高橋用水 大正4年



悠紀齋田と高橋用水 大正4年



高橋用水(六ッ美南部小学校水泳場) 昭和30年



本項は以下の資料を引用している。

[六ッ美南部の歴史・文化を紐解く]

著者 岡崎市立六ッ美南部小学校 高須 亮平
 発行日 2012（平成24）年3月31日 初版発行
 印刷所 ブラザー印刷株式会社

[碑は語る岡崎平野の治水と農業]

著者： 渋谷 環
 発行者： 渋谷 環
 発行日：2005（平成17）年9月19日
 印刷所：ブラザー印刷（株）

安藤川（P39）、広田川（P39、P159）、占部用水（P45）、高橋用水（P45）、
 耕地整理（碑文訓読 P64）、悠紀斎田（P129）、菜種栽培（P155）、
 各種記念碑（P174）の記述がある。